

2018年度 第16期

事業報告書

(事業年度:平成30年4月1日～平成31年3月31日)

2019年6月

特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ

<2018 年度の活動>

2018 年度は、大きな変化の年であった。8 年 7 か月お世話になった松下ビルでの活動に終止符を打って、現在の「のヴァ公民館」+隣接する古民家と、浜松市中心市街地にたけし文化センター連尺町を建設し、2 か所に拠点設けることとなった。

当初の計画では、のヴァ公民館と松下ビルでの活動はそのままとし、たけし文化センター連尺町を新設し、3 か所拠点としていたが、松下ビルの諸事情により移転を余儀なくされた。そのため、2018 年度はこの大掛かりな引っ越しを滞りなく行うことに注力することとなった。拠点の変更は場所の引っ越しだけではなく、福祉制度上の申請、再審査、調整、保護者や関係者への説明、利用者の安全管理…など、さまざまな案件をクリアする必要があり、スタッフ 25 名弱が総出で取り掛かる一大事業となった。

急な移転に伴い、のヴァ公民館及び裏手の民家に急遽、拠点を整備することとなった。これに際してはのヴァ公民館の大家さんのご厚情で何とか期限までに移転することができた、建築設計者、成功会社の皆さんには大変無理をお願いする結果となったが、快く受けていただき本当にありがたかった。また、突然の移転、事業の変更にもかかわらず乗り切れたのは、ひとえにスタッフ同士の信頼関係と連携の妙技によるところが大きい。

レッツは今年で設立 18 年だが、その中で多くの関係者の皆様に支えていただき今日があることを痛感する 1 年となった。11 月 1 日のたけし文化センター連尺町の開所式と同日に「久保田翠芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞記念祝賀会」が行われた。浜松随一のホテルで行われた祝賀会には、多くの皆さんにご参集いただいた。そうした長年お世話になっている皆様と、レッツの利用者の皆さん、ご家族の皆さんが一堂に会する宴の会となった。多様なイベントを多く手掛けてきているレッツではあるが、こうしたパーティーを行ったことがなく、法人にとって大変良い経験となった。

支援においては、スタッフの心配とは裏腹に、利用者の皆さんは全く動揺することもなく、すんなりと場に慣れていつもと変わらない日常をさっそく展開している姿には、スタッフ一同感服するのみであった。たけし文化センター連尺町では、さっそく地域とのかかわりが生まれ、多くの方々が来訪している。またさまざまなことごとく起きている。全くこれからが楽しみである。

のヴァ公民館、古民家で始まった放課後等デイサービスは、場所としては狭くなったものの広い庭を利用していままでとは違った「遊び」が展開されている。のヴァ公民館にいても、連尺町とはまた違った落ち着きがあり、利用者がその場の雰囲気に合わせて、活動を変えている姿は、支援の広がりを感じる。

文化事業において最も移転の影響を受けたのは、2016 年から始まったスタ☆タン!!3 の次年度への延期であった。一定の顧客や社会的なインパクトを考えると惜しい決断ではあった。しかしその後、NHK、E テレがスタ☆タンを参考にしたイベントを行うなどこの事業の影響力の高さがうかがえる。2019 年度はぜひ実行したい。

2019 年 2 月にはたけし文化センター連尺町を拠点に、「表現未満、文化祭」を開催した。オープンから 3 か月にもかかわらず多くの方々が来訪された。この事業への関心の高さを実感した。2016 年から始まった「表現未満、プロジェクト」は 3 年目を迎え確実に成長している。

次年度からの様々な展開が楽しみである。

(1) 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

■利用状況

【定員：生活介護(定員連尺 20 名・入野 10 名)／自立訓練(定員 6 名・9 月末まで)／就労継続支援 B 型(定員 10 名)／日中一時支援】

契約者のうち、実利用者数の推移としては、生活介護 22 名→25 名と増加(平均12名程度)、自立訓練2名→3名(平均 1 名)、就労継続支援 B 型は生活介護への利用切り替えにより 9 名→6 名と減少(平均4)、日中一時支援は自立訓練利用者の移行により 11 名→15 名(平均 3)と増加した。

■事業運営の状況

これまで障害者の通所施設として、生活介護・自立訓練・就労継続支援 B 型の3種の事業を行う多機能事業所「アルス・ノヴァ」を運営してきたが、以下の通り様々な運営上の変更が行われた年となった。

9 月

2010 年より行ってきた自立訓練を廃止。期限を設けない安定した利用体制がとれる就労継続支援 B 型の人気が高く、引越し、事業見直しにあたり、B 型に統合することにした

11 月

たけし文化センター連尺町のオープンにより、連尺町(主)と入野町(従)の2拠点に分散。一致型施設として2月まで運営。移転と同時に完全送迎を行う。(土曜日送迎も開始) 駅からも近いこともあり自力で通うことができる利用者も増えた。

不足している送迎車は、静岡県共同募金会より助成をいただき一台新車を購入することができた。

3 月

2拠点を別々の事業所として登録。入野町の拠点は「アルス・ノヴァ入野」と名称を分け、生活介護・就労継続支援 B 型の 2 種類のサービスを多機能事業所として行っている。いっぽう、連尺町のたけし文化センター内の「アルス・ノヴァ」は定員を 20 名と大幅に増やし、生活介護のみサービス提供している。

定員変更等により職員の配置基準が、利用人数に対し職員が多めに配置されることになったが、産休・育休を経て復帰したスタッフのほか、アルバイトやパートの時間数を増やして対応している。31 年度前半以降は配置基準が見直されるため、人員に余裕ができる予定である。

福祉施設が二つの事業所に分かれたことにより、管理職が必要になることから、スタッフ2名が相談支援従事者研修を経て、サービス管理責任者研修を受講し、修了した。これでサービス管理責任者免許取得者は 6 名となった。

■主な活動

● 対外活動

2016 年度から始まった「タイムトラベル 100 時間ツアー」(アルス・ノヴァ滞在ツアー)を本年度は毎月末に開催した。入野町で8年間を過ごした松下ビルには多くの活動の痕跡が残っていることから、この施設を体験したいという県外の参加者が夏前後に多く訪れ、利用者にとっては外部の方々との密な時間を共にする貴重な機会となった。

6 月には「路上演劇祭@浜松」に「表現未満、実行室」として参加。商店街の一角に楽器やカーペットを持ち込み、ダンスをしたり

音楽をしたりというパフォーマンスを行った。(YouTube 週刊あるす・のヴぁ Vol.101)

9月、10月には作業所連合会・わが主催する「ふれあいスポーツ大会」と「元気ライブ」に参加。特に元気ライブでは、スタッフと利用者の2名のお笑いコンビとして司会を務め、大成功を収めた。

毎年参加している「遠州横須賀ちっちゃな文化展」では、今年も自由に会場内を回って、いくつものブースに立ち寄り温かくもてなしていただいた。

11月からは、のヴぁ公民館とたけし文化センター連尺町に拠点を分けることになったが、特にたけし文化センター連尺町は、これまでのような入口の鍵をあえてかけず、通りに開かれた場所として運営を始めた。歩道やビルの軒下で日中過ごしたり、音楽活動を行ったり、街なかへの散歩に出かけたりと、街を歩く人たちとの接点が大幅に増えた。利用者が著した小説を音読する会なども、新しいたけし文化センターの夜のイベントとして定着している。

また、外部からのオファーとして利用者とスタッフが出かけることもあった。久保田が講師を勤めた6月の東京藝術大学 DOOR プロジェクトの授業や、12月の静岡大学での講義に利用者が同行し、時には本人が学生に話をすることもあった。11月に大分で開催された全国障害者芸術・文化祭にも利用者3人が訪問(当報告書「表現未満、プロジェクト>かしたたけし」に詳細)。また、11月に市内の佐鳴台小学校で開催されたピアノコンサートでは、アルス・ノヴァのレディオ体操を地域の方々や子どもたちと共に行ったが、その後も2月に2度佐鳴台小学校のお昼休みに「ミニミニアルス・ノヴァ」として滞在するという企画で継続的な関係が続いている。

3年前から就労継続支援B型の「のヴぁてれびクルー」が動画配信サービスYouTubeでアルス・ノヴァの出来事を配信している「週刊あるす・のヴぁ」は、今年度も引き続き、外部の方に施設の様子を見てもらう機会となっている。

●地域とのかかわり

毎年夏の佐鳴湖花火大会に合わせて開催していた「アルス・ノヴァサマーフェスティバル」を今年も開催。利用者家族が花火を楽しむいっぽうで、フリーマーケットを行った。松下ビルからの移転の後、のヴぁ公民館と放課後等デイサービスが入野に残ったが、12月26日に改めて開所式を開催した。ただ、のヴぁ公民館では連尺への引っ越しに伴いフリーマーケットが終了し、毎月地域の1200班に回覧していた「のヴぁ通信」も移転とともに休止したため、入野町での地域とのかかわりは以前より薄くなってしまっている。

連尺町では、新たに街なかの自治会や店舗に配布する「たけぶん便り」を月に1回のペースで発行を開始し、利用者とともに配布することで地域とのつながりをつくる機会となっている。また、地域の防犯協議会や商店会連盟などに加入。利用者により万が一のことがあった場合に備え協力体制を築いている。

連尺町では開所まもなくテンギョウ・クラさんが「あいさつ係」に就き、道行く人々とアルス・ノヴァを繋げてくれた。なかでも、テンギョウさんが特に親しくなった美容室「ムンク」の店主(アルス・ノヴァから2軒北隣)は、テンギョウさんが去った後も引き続き、利用者やスタッフに声をかけてくださっている。

●健康

健康管理のため、積極的に散歩に出かけたり、ダンスや腹筋を行ったりと、身体を動かす機会を作った。夏頃からは、引越に伴い荷物の整理や解体作業など、肉体を使う作業が多く、運動不足の方を中心にスタッフとともに作業を行った。以前同様、週2回の看護師によるバイタルチェックも行い、データを蓄積しているほか、昨年に引き続き歯科検診も行った。

●支援

夏頃から移転に伴う引越準備と解体作業が始まり、スタッフと利用者が共に働いたり、ものを増やさないようにするなど、引越と支援とが両立するよう工夫しながら支援した。そうした中でも、水遊びが止まらない利用者や、新しく通うことになった利用者なことなどで、支援の方向性を確認したい場面が生じ、他事業所の職員も参加していただきながら「支援会議」を行った。引っ越しの慌ただしい時期だけに、利用者が不安定にならないよう、支援会議を有効に活用しながら支援した。

また、のづあ公民館(のちたけし文化センター)で開催している講座「レッツアート」や「アートインコミュニティ3」、「銅版画講座」にも一部の利用者がコンスタントに参加している。

■生活介護

今年度が一番大きなトピックは、やはり 11 月の移転である。前述の通り、生活介護が連尺町(主)と入野町(従)の二つの拠点に別れてサービスを行った。多くの利用者は連尺町に移り、新築した「たけし文化センター連尺町」の 1・2 階に通所している。駐車するには不便な立地のため、移転にともなって、これまで行っていなかった土曜の送迎サービスを開始した。幸い利用者には大きな混乱は見られず、多くの方は、移転前と同じように通所して過ごしている。一方、一部の方は、新たな周辺環境への関心から外出の要望が多くなり、散歩や買い物を楽しんでいる。ある方は、ジュース代として家庭から与えられた限られたお小遣いを持って様々な場所を訪れ、ゲームセンターでゲームをしたり、コーヒーショップでコーヒーを買ったりと社会に出る機会になっている。また、施設の前を通る人が多いので、玄関先で過ごしているだけでも外の人と交流が生まれている。入野町の方も、これまで利用してきた建物を離れ、のづあ公民館に拠点を移した。改装した小規模なスペースで、絵を描いたり、おしゃべりをしたりして過ごしている。人数も少なく、比較的落ち着いた方が多いので、積極的に散歩やドライブに出かけることができている。例年同様に、対外活動で生活介護利用者が外出する機会が多くあった。路上演劇祭では、会場の浜松市内のアーケード商店街に多くのメンバーで滞在し、自分たちが出演時間以外でも、演劇祭の雰囲気を楽しむことができた。限られた利用者にはなるが、県外への外出の機会もあり、東京藝術大学や大分県立美術館に行くことができた。継続して開催している「タイムトラベル 100 時間ツアー」など外部の方が、遊びに来る機会も多く、利用者はお客さんとの交流も楽しんでいる。2 月の「表現未満、」文化祭では、「魅惑のアルス・ノヴァ企画」として、普段の施設の中で行われていることを披露する場をもつことができた。

■就労継続支援B型

就労継続支援 B 型は、利用する方それぞれの要望や状況に応えるために、〈ワーク〉〈バラエティ〉〈エクササイズ〉という 3 つの働き方を用意している。〈バラエティ〉では、村木大峰さんが「恋愛妄想詩人・ムラキング」として活動している。2018 年度は「タイムトラベル 100 時間ツアー」参加者に向けた詩の WS を定期開催。また、静岡大学や静岡文化芸術大学の授業に講師として登壇した。のづあてれびの番組「週刊あるす・のづあ」では、毎週「ムラキングのたまに名言」のコーナーに出演して、日夜書きためている名言(迷言?)を披露している。〈エクササイズ〉に所属する 3 人のメンバーは、それぞれに日課とした掃除などの軽作業を通じて「仕事」に必要な習慣を身につける練習をしている。そして仕事以外の時間にはそれぞれの興味関心によって映画制作や音楽活動など自由に活動を展開して、それが「できること」や「やりたいこと」を深めたり広げたりすることにつながっている。観光事業「タイムトラベル 100 時間ツアー」で観光客を出迎えたり、施設を案内したりするのも〈エクササイズ〉のメンバーの仕事のひとつである。1 名の方は継続して「のづあてれび」の研修を実施しており、週刊あるす・のづあ用の動画を制作をすること実践的に学んでいる。「のづあてれび」の映像制作を主な仕事とする〈ワーク〉では、現在 2 名の方が働いており、外部からの業務を受託したほか、それぞれの方の体

調に合わせて、業務内容を調整しながら、毎週「週刊あるす・のヴぁ」を YouTube にて公開している。

●のヴぁてれび

2018年度、のヴぁてれびは開設から4年目を迎えた。アルス・ノヴァの劇的な日常を発信する番組「週刊あるす・のヴぁ」を継続的に発信している。2018年度末現在の時点で169本がYouTube上で公開されており、本年度内の延べ視聴回数は1万4千回を上回っている。「たけし文化センター連尺町」オープン前後の激動の様子もしっかりと刻まれている。また、のヴぁてれびクルーの提案から生まれた新コンテンツ「アルス・ノヴァ60秒劇場」をSNSで不定期に公開しています。60秒という視聴者にとっては気軽に見られる分量で、アルス・ノヴァの日常のエッセンスを垣間見せる映像は、好評を得ています。

外部からは2件の映像制作業務を受注した。ひとつは、かけがわ街づくり株式会社から依頼を受け制作した掛川市の重要文化財「松が丘住宅」のプロモーションビデオ。もうひとつは、アルス・ノヴァを利用する高橋舞さんの妹さんから依頼を受け、「高橋舞個展はってる感じ@高橋家」の記録撮影を行った。

●工賃

平成30年の障害福祉サービス等報酬改定では、就労継続支援B型事業の基本報酬が平均工賃によって7段階に分けられた。こうした流れを受け、静岡県も独自に工賃向上計画を作成して、目標工賃月額を30,000円としているが、アルス・ノヴァの就労継続支援B型の今年度の平均工賃月額は、4,124円となっている。工賃を上げる努力を今後も続けていくことは言うまでもないが、一方でアルス・ノヴァの就労Bは、働きお金を稼ぐことに限らない、社会と個人との間の緩衝地帯でどうやって生きていくのかということを本人のペースでゆっくりと考え選んでいく居場所でもあるはず。その歩みは、体調や環境によって行きつ戻りつしながら、また偶然の出会いによって一気に開けることもあることを、わたしたちはこの数年間利用者の方々とともに知ってきた。一人ひとりが選ぶ仕方で生きていくこと、それを現在の6名の働き方をともに考え作っていく上で、今後も大切にしたい。

(2) 障害者総合支援法に基づく一般相談支援事業

今年度の事業なし

(3) 障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業

今年度の事業なし



入野で最後の「プール」



入野小学校へ散歩



入野で最後のサマーフェスティバル



元気ライブでの司会



軒先で過ごせるたけし文化センター



まちなかを散歩



のヴあてれびの取材風景



新しい施設の壁に何かが貼られていく

(4) 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業

■利用状況

【放課後等デイサービス(定員 10 名)】

契約者のうち実利用者数は年間を通して 16 名(日中一時支援 7 名から年度末には 6 名)。日中一時支援を除く平均利用人数は定員 10 名に対して 5 名となっている。多くは特別支援学校の中学部・高等部の生徒で、ほとんどが高等部の生徒である。特に土曜日の利用が少ない傾向がある。

一年を通して、大きな怪我や事故も無く、日々過ごすことができた。

■事業運営の状況

8 年間分の落書きが壁面を埋め尽くしていた入野の松下ビルを引き払い、11 月からはのづあ公民館の裏手にある古い民家に活動の拠点を移した。広さは十分であるが、トイレや壁などに課題の多い建物で、拠点を移してからしばらくは整備が続いた。

5 月に児童発達支援管理責任者が平山から夏目に代わり、主任は変わらず竹内が務めている。30 年度からはサービス提供のガイドラインの順守と評価の公表が義務付けられることになったため、利用者アンケートや自己評価を行ない、ウェブサイト公表した。

30 年度は平均利用者数が定員の半数にまで落ち込んでしまった上、支援員の資格については法改正により厳格化したため、事業の運営はますます厳しくなってきた。改めてどのような場として運営するべきなのか考え直す必要が生じてきている。

■主な活動

●遊び

人数が少ない日は 1 人～少人数で「こだわりの行き着くところまで」のびのびと行なう遊びができている。有り合わせの材料で秘密基地や落とし穴を作ったり、お店屋さんごっこをしたり、段ボールに針と糸を通して縫い物を作ったりしたほか、正月には何度か凧を作って凧揚げもした。どの遊びも 1 人またはごく少人数での遊びである。

引越に伴い、さまざまな解体作業が生じてきたので、支援スペースのドアを外したり、壁面のものを外すという作業も「解体遊び」と称して子どもたちと精力的に行った。

前年度から本格化した段ボール工作は、高校 3 年生のある児童がいろいろ技術を磨き、自分がイメージした通りの武器をおおよそ制作できるようになった。そうした工作物を集めて、2 月の表現未満、文化祭では「卒展」も行った。

こうした豊かなあそびの現場が NHK の目にとまり、5 月 5 日のこどもの日に特番の一部としてアルス・ノヴァの放課後等デイサービスの遊びのようすが全国に放映され、大きな反響があった。

●外出

電化製品が好きな児童と一緒に外に出かけて、エアコンの室外機のメーカーと型式をチェックして回ったり、体力のある児童とは、1 対 1 でイオンや佐鳴湖など遠くまで散歩に出かけたりした。

(5) 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

今年度の事業なし



木造2階建てを改修した新拠点



内観



浜への散歩



定番のハンモックも復活



電化製品好きな児童と



秘密基地

(6) 文化センター事業

① たけし文化センター建設事業

浜松駅から800mのところ(浜松市中区連尺町314-30)に、日本財団さんの応援を頂いて、様々な人たちが集う、文化発信拠点、「たけし文化センター連尺町」を開設した。日本財団さんからは、「長年、様々な人たちがともに生きる社会を目指して活動しているレッツは、障害、福祉、文化、街づくりに横断する事業として行っており、それを障害者から発信している。今回、重度の知的障害者の拠点を中心市街地の設けることで、彼らが街と積極的に関わり、様々な人たちと多様な関係を作っていくことを彼らの仕事と位置付ける試みは、全国的にも例がなく、なかなか進まない重度の知的障害者の新たな就労の形として全国に波及する可能性がある。同時に、住まいに対する取り組みは、個人のQOL(クオリティー・オブ・ライフ)の実現を重度の知的障害者まで広げる試みとして期待したい。」と、評価をいただいた。着工前の2018年4月に地鎮祭、同年11月に開所式を開催し、浜松市長や地元連合自治会長、連尺町自治会長に参加していただいた。

<建物概要>

所在地:静岡県浜松市中区連尺町314-30/構造:鉄骨造3階建/敷地面積:158.92㎡/建築面積:127.10㎡/延床面積:332.86㎡/設計:株式会社高木滋生建築設計事務所/施工:大和建設株式会社/日本財団「はたらくNIPPON!計画 モデル構築プログラム」/助成:静岡県共同募金会(福祉施設機器整備事業)



② のヴァあ公民館・たけし文化センター事業

●概況

平成30年度はこれまでののヴァあ公民館が、生活介護サービスの実施拠点になるという大きな節目にあたり、年度を通して拠点整備と公民館機能の移転に追われた一年となった。

定期的で開催している通常のイベントは9月で一旦休止し、11月以降に一部を除きたけし文化センター連尺町にて再開された。

11月以降ののヴァあ公民館は1,2階が生活介護、就労継続支援B型の施設となり、手狭になったことから、これまで行ってきたフリーマーケットも廃止している。

いっぽう、11月にオープンしたたけし文化センター連尺町では、あいさつ係として滞在したテンギョウ・クラ氏のキャラクターも手伝って、街の方々が時折立ち寄ってくれるようになった。入野での活動に比べて、出会える人の人数が各段に多く、来客対応するスタッフを配置することになったほどであった。

●主な活動

のヴァ公民館での活動同様、自主企画の開催、持ち込み企画の受け入れなどを行った。たけし文化センター連尺町に移ってからは、ライブイベントの企画が持ち込まれることがあり、まちなかの新たなライブスポットとして定着が期待される。

【イベント・講座】

自主企画:レッツアート、アートインコミュニティ、じゅんこさんの銅版画教室、かたりのヴァ、ミドのヴァ、不思議の国とアルス
(梶さんワークショップ)

(レッツアートのテーマの一部)

2018年4月「花(と根っこ)」

2018年6月「美しいかはさておき、こんなに面白い手は無いゾ！」

2018年7月「ケーキを描いて食べる」

2018年8月「上があるから下がある」

2018年10月「見たものの中(台風で折れた立派な
枝を見て触って確かめながらかく)」

2018年11月「仏像でメリークリスマス」

2018年12月「消しゴムハンコで今年一年の自分を出そう」

2019年1月「年の初めは自分の記録を残してもいいよね」

2019年2月「この世に居ない動物をつくろう！」

2019年3月「人を見て感じて描く」

利用者との共催:ムラキングの詩の会、コーヒー大ちゃん、福音会、TwinPeaksRRNight

持ち込み企画:2018年9月18日 つまらない文化の話

2018年12月15日 くまこあら vol.1 ~森脇ひとみさんの演奏と人形劇~

2018年12月21日 真備町に行ってきました

2019年2月16日 工藤裕次郎レコ発! 全公演 投げ銭ツアー2019~浜松編~

定期・不定期開催 村木さんと考えることを考える/積ん読本どくしょ会/

Fumikoさんのアロマ講座/ゆるーく卓球



レッツアート



外部イベント

【フリーマーケット】

移転によって捨てることになった古本を軒先で販売するようになった。古本に足を止める歩行者の方が時折購入していく。表現未満、文化祭の頃にはアクセサリやマグネットなどの小物の寄付もあり、現在に至るまで常に何らかの商品が店頭に並んでいる。

【かたりのヴァ・ミドのヴァ】

スタッフが持ち回りでテーマを決めファシリテーターを務める「かたりのヴァ」と、代表の久保田を囲んで話す「ミドのヴァ」では、今年は「ミドのヴァ」の参加者が徐々にかたりのヴァを越して増えてきており、茶菓子をつまみながら和やかに話せる人気企画のひとつとなっている。

<かたりのヴァ>

2018年

4月14日「叱る訳」 / 5月12日「レッツと社会(2)」 / 6月9日「うんこの立ち位置」
 7月14日「人生相談はおわらない」 / 8月18日「演じるについて」 / 9月9日「車の使い方」
 10月13日「あなたは神を信じますか?」 / 11月10日「恐怖」 / 12月8日「情報を発信すること」

2019年

1月12日「ひとりであること」 / 2月9日「自撮りについて」 / 3月9日「らしさ」

<ミドのヴぁ>

2018年

6月19日「子どもの自立、親の自立」 / 7月10日「子どもの人権、家族の人権」 / 8月7日「母親の役割」
 9月11日「向きあうこと、避けること」 / 10月9日「家族とわたし」 / 11月13日「親亡き後とは」
 12月11日「ひきこもること」

2019年

1月8日「普通ってなに」 / 2月12日「世間の常識」 / 3月12日「孤独について」

【広報物の制作】

2015年秋から地域の回覧板にて閲覧配布してきた「のヴぁ通信」は9月の30号で休止し、新たにたけし文化センター連尺町にて「たけぶん便り」を制作し周辺地域に配布している。回覧板での配布は商業地域であるためほとんど効果がなく、利用者とともに商店を回りながら、協力店舗に配布している。



たけぶん便り

③ シェアハウス・ゲストハウス事業

新設したたけし文化センター連尺町3階には、重度の知的障害者のシェアハウスと一般の方々が宿泊できるゲストハウスを設けた。これは日本財団さんの応援を受けて実現することができた。

シェアハウス及びゲストハウス営業に向けての建築的整備を行った。

- ・防火建築対応設備
- ・火災報知機の設置
- ・消防用連絡経路（消防用電話の設置）
- ・旅館業の取得

④ ソーシャルインクルージョン事業

●概要

ソーシャルインクルージョンを一層推進していくための事業として、主に以下の事業を行った。※< >内は助成・補助元

- ・表現未満、プロジェクト

拠点・居場所づくり

< 日本財団・静岡県共同募金会・静岡県文化プログラム推進委員会 >

ひとインれじでんす

< 静岡県文化プログラム推進委員会 >

表現未満、文化祭

< 静岡県文化プログラム推進委員会 >

観光(タイムトラベル 100 時間ツアー・かしたたけし・観光サミット)

<静岡県文化プログラム推進委員会>

しえんかいぎ

<静岡県文化プログラム推進委員会>

・浜松市連尺町周辺におけるソーシャルインクルージョンの拠点形成に向けた調査分析事業

<経済産業省>

・佐鳴台☆みんなのコンサート

<浜松市文化振興財団>

●表現未満、プロジェクト

「表現未満、プロジェクト」3年目の本年は、「表現未満、」を体感できる拠点として秋に竣工予定であった「たけし文化センター連尺町」のグランドオープンを軸に、ひとインれじでんす、観光、しえんかいぎの4本立てで進行し、2月の「表現未満、文化祭」において今年度のプロジェクトの集大成とした。また、これまでの表現未満、プロジェクトの総括として記録集を制作し、春に観光予定である。

【ひとインれじでんす】

本年度は岸井大輔さんに2回お願いした。岸井さんには今年度で静岡県文化プログラム内での実施が終わる「表現未満、」プロジェクトの今後について考えるコーディネーター的な役割をお願いした。これにより、今後の「表現未満、」プロジェクトの方向性がある程度見えてきた。

また、「たけし文化センター連尺町」の新設にあたり、この場所と地域をつなぐ存在としてストーリーテラーでヴァガボンドのテンギョウ・クラさんに3ヶ月間滞在してもらった。入り口でカフェを開催し、立ち寄ってくれた人や、新施設が気になった人に声をかけ、中に招き入れてくれる存在として、周辺の商店や住民と新施設をつないでくれた。またスタッフは日常の支援業務に追われていて、周辺地域との関わりを重点的に行うには限界がある。また人と向かい合いつなぐということにはテクニックが必要である。たった3ヶ月間ではあったがその成果は大きかった。その結果、テンギョウさんがつないでくれた地域の方をゲストに、朝から晩まで行ったトークイベント「ネイバーフッド・トーク」を開催した。

【表現未満、文化祭】

新しい拠点での自己紹介のような意味もこめて、アルス・ノヴァの日常を中心に「表現未満、」を集めた文化祭を開催した。「たけし文化センター連尺町」を拠点に、市内3箇所ですら三日間開催。総入場者数はのべ600人。54のイベントと6つのトークイベントを行った。

トークイベントは以下の通り。

○親亡き後をぶっ壊せ！ ○観光サミット ～観光やっていますが、どうですか？～

○障害とアートと、その展示 ○文化×福祉×街づくり

これらトークイベントは、観光事業や、ひとインレジデンス等、他事業の報告や、実施結果からトークイベント化したものが多い。特に「文化×福祉×街づくり」は拠点・居場所づくり事業の総括として組み、「たけし文化センター連尺町」の設立経緯と、それに伴って行われた拠点周辺のリサーチの報告、そしてこれからの福祉と街づくりを考える議論を行った。

【観光】

①観光サミットの開催<ゲスト:小松理度 事例発表者:上田假奈代 里見喜久夫 山森達也>

表現未満、文化祭に並行して開催された今回の第2回観光サミットでは、全国各地から観光を行う主体を招いて、それぞれの取組をもとに具体的な議論をおこなった。障害、ドヤ街、フクシマというフィールドは異なるがそれぞれの現場が観光

に期待するものを共有できた。この観光をなんと呼ぶかという議論は昨年が続いて行われたが、今後も時間をかけて継続していくことになった。来る側、受け入れる側の関係が侵食し合う「ゆさぶり」というキーワードを得られた。

②タイムトラベル 100 時間ツアー

観光ツアーをスタートして3年目となる今年は、ツアコンをスタッフが持ち回りで行うことになり、毎月開催した。久保田翠がNHKの全国放送で特集されたことや、たけし文化センター連尺町が新設されたこともあり、社会的な反響が大きく、ツアーにも全国から応募があった。年末年始等を除いて今年度は10回開催、参加者数は48名。

これまでの拠点での開催が最終回となった10月の開催の際には参加者が多く、東京や青森といった遠方からの参加者が多かった。拠点を移し、浜松市の中心市街地での開催になってからは、参加者が多様になってきた。これまでは福祉関係者やアート関係者が多く見られたが、大学教授や、研究者、子連れでの参加が増えてきた。これらは継続的な事業運営の結果と考えている。

1日目:ツアコンのスタッフが企画。アルス・ノヴァの日常を体験してもらい、なるべく自由に振る舞ってもらえるよう必要最低限の説明はしない。参加者は思い思いに、自分の時間を過ごす。利用者帰宅後は、スタッフと振り返りをしながら話したり、代表の久保田の話聞く時間が設けられた。夜には、軽食をスタッフとツアー参加者が囲みながら交流会をした。

2日目:2日目はツアコンのスタッフの意向で大きくプログラムが変わった。浜松の街中観光ツアーを行ったり、利用者さんの日常(休日)にツアー参加者が同行するプログラムを企画したツアコンもいた。

場所:アルス・ノヴァ/のづあ公民館/たけし文化センター連尺町

料金:1泊2日 9000円(学生6000円)/日帰り4000円 ※1日目2食込み

平均参加者人数:5.3人

開催日程:4月27日(金)~4月28日(土) 参加者3名(NPO関係、自治体職員、大学生)

5月26日(土)~5月27日(日)参加者7名(学生、福祉職員、新聞社)

6月22日(金)~6月23日(土)参加者4名(芸大教員、芸大受講生、学芸員)

7月28日(土)~29日(日)参加者8名(アート系福祉施設職員、大阪大学教員、学生)

8月24日(金)~25日(土)参加者4名(高校生、大学生)

9月29日(土)~30日(日)参加者5名(学生、看護師、団体職員、デザイン会社)

11月24日(土)~25日(日)参加者7名(福祉職員、中学校教員、学生)

2019年1月27日(土)~28日(日)参加者5名(出版社3名、ほか2名)

2月22日(金)~23日(土)参加者5名(大学教員、学芸員)

③かしたけし

2018年秋、レッツは大大分県立美術館で開催された「1人ひとりのもつ可能性を活かす仕組みを考えるアート展 Action!」に参加した。代表・久保田のインタビューパネルのほかに、アルス・ノヴァの一部が会場に再現され、そこでスタッフが日々現場で撮りためた「秘蔵映像」が上映された。私たちはこの機会に自主企画として「かしたけし」を敢行し、アルス・ノヴァのメンバーとスタッフで展示会場に滞在した。様々な出会いの中でもハイライトといえる場面は、展示会関連企画として開催された「なにわのコレオグラファーしげやん」こと北村成美さんのダンスWSに、メンバーのアダチくんと太田くんが参加した時

のことだった。WSは、1枚の大きな赤いスカートを参加者で交互に着せたり被せたり脱がせたりしながら、踊りの振りが作られていくというものだったが、自分がスカートを履いたやいなや、決して脱ごうとしないアダチくん。たとえ予定とは違っても、アダチくんの「やりたい！」という気持ちをとらえて、また別の動きや流れをつくり出していくしげやん。その即興的なセッションに周りの参加者もどんどん巻き込まれていった。スローな振る舞いで有名な太田くんも何かを感じ取ったのか、突然クジラのように身をくねらせ跳びあがる！！彼らがいることで、想定外の出来事が巻き起こる。それが人の心のストッパーを外して、自由な場を立ち上げる。そんなことを改めて実感した出来事であった。

そのほか、2月には佐鳴台小学校からの依頼により、昼休みの時間に利用者とともに滞在する「ミニミニあるす・のヴぁ」を2回開催し、子どもたちとともに賑やかな時間を過ごした。

④観光PV

2016～2017年にかけて制作したタイムトラベル100時間ツアーを扱った観光PVを世界的な広告祭「カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル」ほか国内外の映画祭にエントリーしたが、残念ながら受賞することはできなかった。今後も国内外を問わず、映画祭にエントリーを行っていく。

【しえんかいぎ】

アルス・ノヴァでの利用者支援の現場の目を通して「表現未満、」の源流をたどる「しえんかいぎ」は、今年で3年目を迎えた。改めて会議のあり方を問い直したのち、他事業所のスタッフの方々に協力を得ながら会議を進めた。また、通常の課題解決型の「支援会議」も併せて開催した。

6月 次回「しえんかいぎ」の議題や開催の仕方を協議

7月 第6回「しえんかいぎ:こうすけさん」

8月 第7回「しえんかいぎ:浜松協働学舎・Hさん」

9月 「支援会議:Oさん」

10月「支援会議:こうすけさん」

11月 第8回「しえんかいぎ:アルス・ノヴァの支援について」

1月 「支援会議:K.Oさん」

●浜松市連尺町周辺におけるソーシャルインクルージョンの拠点形成に向けた調査分析事業

昨年度、経済産業省の「平成30年度地域・まちなか商業活性化支援事業補助金(中心市街地再興戦略事業)」を受諾した。これによって、アンケート調査、ヒアリング調査、マッピング調査、交通量調査をおこなった。この事業は、しんきん研究所、浜松市にぎわい協議会、静岡文化芸術大学磯村克郎教授、中村美帆准教授、Dajiba403の協力を得て行った。

アンケート調査は300戸、ヒアリング調査はグループヒアリングを7回行った。アンケート、ヒアリング共に7つの属性の方々を対象とした。高齢者、中高生、大学生、子育て中のお母さん、街づくり関係者、障害者関係者、外国人グループを対象に1グループ6～7名程度で行った。

中心市街地は商業関係者を対象とした調査が多いが、むしろ「街」に対するイメージや利用の仕方を中心に調査した。

マッピング調査では、中心市街地とその周辺のオルタナティブスペースをマッピングし、そのなかから先駆的な事例を20か所選定し、ヒアリングを行った。

これによって、「にぎわい」をもたらすのは商業だけではないという在り方が明確に見えた。また同時に浜松市ではオルタナティブ

スペースの在り方が特徴的であることが垣間見える事業となった。

● 佐鳴台☆みんなのコンサート

佐鳴台小学校からお声掛けいただき、コミュニティスクールを目指す同校とともに、アルス・ノヴァや地域住民との協働プロジェクトを行うことになった。それが「佐鳴台☆みんなのコンサート」である。

11月14日、アルス・ノヴァの面々や放課後のこどもたち、保育園のこどもたち、中学生や保護者、地域の住民あわせて200名余が佐鳴台小学校の体育館に集い、浜松在住のピアニスト、今西泰彦氏のピアノを聴いたあと、アルス・ノヴァのメンバーとのレディオ体操や、保護者で歌手の宮本りつこ氏との音楽遊びを楽しむ和やかな会となった。このコンサートがきっかけとなり、アルス・ノヴァのメンバーが昼休みに佐鳴台小を訪れる「ミニミニ・アルス・ノヴァ」が2月に2回行われた。来年度もひきつづき、昼休みのミニミニアルス・ノヴァを継続しながら、佐鳴台小学校との関係を続けていくことになりそうだ。



Action!展の広報物から



Action!展の様子



「表現未満、」文化祭トークの様子



「表現未満、」文化祭の外観



「表現未満、」文化祭、夜の「クラブアルス」



「表現未満、」文化祭、「しゅんちゃん」と街の音を聴く」



タイムトラベル 100 時間ツアー、振り返りの様子



タイムトラベル 100 時間ツアー、交流会の様子

■2018年度メディア掲載

- 4月3日 朝日新聞「折々のことば」(久保田翠芸術選奨文部科学大臣賞贈呈式スピーチから)
- 4月7日 静岡新聞「中心市街地に重度知的障害者拠点」(たけし文化センター連尺町)
- 4月7日 中日新聞「浜松・中区に今秋新施設」(たけし文化センター連尺町)
- 4月11日 中日新聞「障害者と共生できる社会へ 中区で新施設地鎮祭」(たけし文化センター連尺町)
- 4月11日 静岡新聞「重度知的障害者の活動を核 文化発信へ拠点建設」(たけし文化センター連尺町)
- 4月23日 朝日新聞「障害者らの文化施設街中に10月オープン」(たけし文化センター連尺町)
- 5月5日 NHK Eテレ くうねるあそぶ こども応援宣言 第5弾「ちゃんと遊べてる？」(放課後等デイサービスアルス・ノヴァ)
- 5月7日 中日新聞「吃音逆手にラップパフォーマンス 大西健太郎さん」(スタ☆タン!!2)
- 6月26日 静岡新聞「芸術選奨新人賞受賞を知事報告 浜松NPO法人」(久保田翠)
- 7月15日 静岡新聞@エス「障害者支援の在り方は 浜松、NPO理事長が講演」(久保田翠)
- 7月22日 中日新聞「浜松の障害福祉施設で観光ツアー」(タイムトラベル 100 時間ツアー)
- 8月8日 msb! 交友発掘キャラバン No.35 (<http://www.msb-net.jp/msbcaravan/2018/08/08/18555>) (久保田翠)
- 8月11日 日本経済新聞「自由な行動 そのまま肯定」(静岡きりり人材) (久保田翠)
- 9月23日 朝日新聞「落書きに大音響『健常者への挑発』」(都築響一さんがアルス・ノヴァを体験する)
- 10月15日 NHK Eテレ ハートネットTV ブレイクスルー File.89(再放送) 「“あるがまま”を受けとめて 障害者の新しい生き方を探す」(久保田 翠)
- 11月2日 中日新聞「障害者の新たな居場所に」(たけし文化センター連尺町オープン)
- 11月2日 静岡新聞「障害者の文化発信支援」(たけし文化センター連尺町オープン)
- 11月19日 静岡新聞「体操や合唱で楽しむ」(佐鳴台☆みんなのコンサート)
- 11月21日 読売新聞「障害者との交流施設」(たけし文化センター連尺町オープン)
- 11月23日 静岡新聞「ありのまま 社会に問う」(久保田翠)
- 11月26日「多様な聴き方 促すピアノ」(佐鳴台☆みんなのコンサート)
- 2月2日 静岡新聞「障害者の『自己表現』披露」(「表現未満、文化祭」)
- 2月4日 静岡新聞「障害者と親 人生考える」(「表現未満、文化祭」)
- 2月6日 静岡新聞「障害者に文化発信拠点」(浜松・中心市街地活性化リサーチ事業)
- 3月4日 NHK ハートネットTV 総合サイト「アルス・ノヴァ代表・久保田翠さんが考える、重い障害のある人たちの新しい生き方」(<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/188/>)
- 3月31日 ロームシアター京都ASSEMBLY掲載「『表現未満、』と子ども」(久保田翠)

■久保田翠の講演

- ・2018年4月18日 愛知県安城市手をつなぐ育成会
- ・2018年6月22日 兵庫県知的障害者施設家族会連合会
- ・2018年7月2日 東京藝術大学「Diversity on the Arts Project」(通称:DOOR) ダイバーシティ実践論
- ・2018年7月12日 浜松市障がい児放課後支援連絡協議会「支援について少し違った角度から考える」
- ・2018年9月8日 静岡県文化プログラム SHIZUOKA Study「出来事の魅力を発見し発信すること」
- ・2018年10月28日 大分県国民芸術祭・障害者芸術祭 「障害者1人ひとりのもつ可能性を活かす仕組みを考えるアート展 Action! 」クリエイティブサポートレッツの活動～ソーシャルインクルージョンを目指して～
- ・2018年11月29日 京都 HAPS 「共生社会実現のためのアーツマネジメント入門」(全7回)
- ・2019年2月10日 全国アートNPOフォーラム in 八戸
- ・2018年12月3日、10日、17日 静岡大学 「NPO・ボランティア論」
- ・2018年12月4日 静岡文化芸術大学

【スタッフ講演】

- ・2018年7月7日～8日 たんぼぼの家 福祉を変えるアート化セミナー(佐藤啓太・山森達也)
- ・2018年11月17日 静岡県労働者福祉基金協会 「ソーシャルセクターで働く～NPOとキャリア～」(佐々木知里)

■チラシ・フライヤー等

